

高校生ICT Conference 2020

in サミット

「新しい生活様式とICT活用法」～行動制限の時代に生きる～

開催報告書

2020年11月15日(日)12:00-17:00

【会場】：オンライン

主催

高校生ICTカンファレンス実行委員会
(構成団体)

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会
大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省

2020年11月27日

目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2020 地域開催.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2020 in サミット 開催概要.....	5
4. 主担当.....	8

1. 開催概要

名称：	高校生 ICT Conference 2020 新しい生活様式と ICT 活用法 ～行動制限の時代に生きる～
主催：	高校生 I C Tカンファレンス実行委員会 (構成団体) ● 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会
共催：	内閣府、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省
後援：	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構
協賛：	グーグル合同会社、株式会社ラック、グリー株式会社、株式会社サイバーエージェント、株式会社メディア開発綜研、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、エースチャイルド株式会社、Twitter Japan 株式会社
協力：	株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社、
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICTプロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加、その後順次規模を拡大し、2019 年度には、全国 19 拠点にて開催し、計 129 校 559 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>【本年開催テーマのコンセプト】</p> <p>近年、台風、水害などの自然災害のみならず、世界的な感染症の流行など、かつては想定できなかった事態に遭遇しています。例えば感染症の流行では、外出自粛（登校禁止含む）が長期間に及びました。未だ完全な対策が無い中で、生活様式の見直しを求められ、また社会自体も大きく変わろうとしています。</p> <p>高校生が、この環境変化をどう捉え、またどう乗り越えようとするのか、I C</p>

	<p>T活用という側面から、高校生の目線で、今ある環境の活用、また将来の期待する姿を、様々な視点から考え、紹介また提言する。</p> <p>※平成21年4月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成23年度の小学校を皮切りに、平成24年は中学校、平成25年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しいICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全にICTを利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン） (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	<p>募集参加生徒 30名（各開催地により変動あり） 募集見学者各回 30名（各開催地により変動あり）</p>
参加参観方法：	<p>参加費・参観無料 [要事前登録]</p>
高校生 ICT Conference2020 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長） <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT研究会理事・消費者団体訴訟室長） ・ 猪股 富美子（お茶の水女子大学 人間発達科学研究所） ・ 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） ・ 小城 英子（聖心女子大学） ・ 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】</p> <p>安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目14番6号 斎藤ビル2階 TEL: 03-3562-8850 FAX: 03-3562-1180</p>

2. 高校生 ICT Conference 2020 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜しました。

地域	開催日	開催方法	システム	備考
北海道	10月11日	オンライン	Zoom	
茨城	10月27日	オンライン	Google Meet	
神奈川	10月17日	オンライン	Zoom	
新潟	9月13日	オンライン	Zoom	
石川	10月11日	オンライン	Zoom	
長野	10月17日	オンライン	Zoom	
静岡	10月18日	オンライン	Zoom	
大阪	9月6日	オンライン	Zoom	
奈良	10月4日	オンライン	Zoom	
高知	10月24日	オンライン	Zoom	
福岡	10月25日	ハイブリッド	Zoom	
佐賀	10月4日	オンライン	Zoom	
大分	10月10日	オンライン	Zoom	
鹿児島	10月17日	オンライン	Zoom	
オンライン	11月1日	オンライン	Zoom	
サミット	11月15日	オンライン	Zoom	

3. 高校生 ICT Conference 2020 in サミット 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 97 名の参加者を得て、Zoom を使ったオンライン形式で、「新しい生活様式と ICT 活用法」～行動制限の時代に生きる～をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【熟議】</p> <p>司会進行・主旨説明</p> <p>高校生 ICT カンファレンス実行委員長 米田 謙三 様</p> <p>高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶</p> <p>総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部 消費者行政第一課長 片桐 義博 様</p> <p>総務省は情報通信分野を担当し、情報がネットを通じて自由かつ安心・安全な形で流通するのを促進することで、新たな価値がどんどん生まれる社会をつくるための政策に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症の影響で、テレワークや遠隔授業が拡大している。これにより、皆さんは、様々な場面で、これまで出来たことができなくなったという「不自由」を感じることもあると思うが、見方を変えると、ICT を用いて社会をより良い形に変えるきわめて効果的な契機でもある。「新しい生活様式」において ICT の利活用が「ベター」ではなく「マスト」になったことで、物事が急速に変わり始めた。こうした機会に、是非、皆さんの柔軟な発想で、世の中を大きく変えるような「新しい価値」を考えて欲しい。今日のサミットでは活発な議論をし、高校生ならではの提言がまとまることを期待している。</p> <p>消費者庁 消費者政策課長 内藤 茂雄 様</p> <p>高校生 ICT カンファレンスへの参加を毎年楽しみにしている。新型コロナの影響もあり社会のデジタル化が進み、元に戻ることは無いだろうと思わる。これからは、既存の概念では測れなくなった社会で、どう生きて行くか考えねばならず、行政もまた同様に政策をどう築いていくかを考えねばならない。高校生の皆さんの柔軟な発想は政策を考えるうえでとても有意義であり、反映させていきたい。今日は、日ごろ出会うことのない人と議論を交わす機会であるので、交流を深めて欲しい。</p> <p>経済産業省商務情報政策局情報経済課 デジタル取引環境整備室長 日置 純子 様</p> <p>経済産業省では IT 産業新興の他エネルギー政策も担当しているが、ICT 利用は、昨今増加している自然災害への対応、レジリエンス（復元力）強化に向けた一つの方策となっている。例えば、昨年の台風時の経験を踏まえ、SNS への書き込み情報を自動分析して被害状況を把握しようとする取組が進んでいる。また、昨今の</p>
----	--

新型コロナを契機として、これまであまり浸透しなかったビデオ会議が急速に使われるようになり、その便利さに気付くと同時に課題もみえてきた。ICT はうまく使われてこそ価値があり、それが世の中を発展させる原動力となる。高校生の皆さんのフレッシュな視点での議論が、日本や世界を元気にしていくことを期待している。

**文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室
青少年有害環境対策専門官 打田 剛 様**

新型コロナの影響でテレビ会議、テレワーク利用が一気に広まった。政府もデジタル庁の新設やGIGAスクール構想などを進めており、これまで以上に動きが早くなっている。絶えず変化を続けるインターネットの世界とどう付き合っていくのか、古くて新しいテーマである。電子掲示板が SNS に代わってもそれぞれがメリットとデメリットを持つ構図は変わらない。令和2年は新型コロナ対策という特殊な事情で従来とは異なる環境での議論となるが、今年しか出来ない議論をエンジョイして欲しい。

**内閣府政策統括官（政策調整担当）付参事官（青少年環境整備担当）付
専門職 岡部 勇介 様**

新型コロナを契機に、オンライン授業やテレワークが拡大し、社会全体が大きく変わった。このような中、サミットも初めて Web での開催となった。地域、学校等により ICT 機器の活用は様々で、それぞれの環境の中で利活用が進んでいるが、地域を問わず、誰もが ICT を賢く使いこなすことが求められるようになった。内閣府では各省庁と連携して施策に取り組んでおり、来年には新しい基本計画を作る予定である。今日は、大人の知らない高校生ならではの考え方、感じ方を学び、これからの施策に活かしていきたいと考えている。

【各開催地域代表による地域の取り組み発表】

アイスブレイクとして各地域代表生徒が、今年度のテーマでの地域の熟議内容の報告を招待参加校は各地域での独自の取組の紹介を行いました。限られた時間の中で、代表の生徒は各地域でのそれぞれの取り組みの内容を上手に発表しました。

函館ラ・サール高等学校
茨城県立竹園高等学校
神奈川県立磯子工業高等学校
新潟県立長岡高等学校
小松大谷高等学校
長野県明科高等学校
日本大学三島高等学校
関西学院千里国際高等部
帝塚山高等学校
高知県立佐川高等学校

福岡県立門司学園高等学校
佐賀県立佐賀商業高等学校
大分東明高等学校
鹿児島情報高等学校
野田学園高等学校

【熟議・発表資料作成・リハーサル】

進行役の米田先生からファシリテーターの紹介があり、熟議内容の発表までのスケジュール説明がありました。今回のグループ熟議は 3 つの班に分かれて進められました。それぞれの班で熟議の進め方やペースは違っていました。オンラインであることを忘れさせるほど、それぞれ工夫しながらまとめていきました。それぞれの班で熱く議論が交わされました。

【発表】

各班とも Google スライドを活用して熟議をまとめ 4 分程度の発表をおこないました。

1 班

ICT 技術の進化に日本の教育制度が追いついていないと分析し、全国共通の公認学習アプリを導入し“自分の学習レベルや表記の揺れを抑える”とともに実技は実授業として行うハイブリッドな教育の実現を提言しました。

2 班

現在の ICT の活用において「差」があり、その原因は個々人の“環境”“意識”“知識、技術”にあると分析し、これを克服するにはレベルにあった ICT の活用が必要で、そのための ICT ソフトの提供の必要性を提言しました。

3 班

授業に ICT を活用する意味を確認したうえで、活用を進めるには先生の ICT への理解を深める必要があると指摘し、それぞれ教科ごとにガイドラインを示したうえで実現のために行政のサポートを提言するとともに、様々な機器に対応したアプリの提供を提案した。

その後、参加生徒自身が 12 月 10 日に開催される最終報告会代表校の選定投票を行い、帝塚山高等学校、福岡県立門司学園高等学校を代表校に選出し発表されました。

日 時：	2020 年 11 月 15 日（日）12：00－17：00
場 所：	オンライン
参加人数：	熟議参加生徒 15 人 見学者・関係者 82 人（教員・教育関係者・その他） 合計： 97 人

熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略)</p> <p>【1班】 5名 函館ラ・サール高等学校 2年男子 小松大谷高等学校 1年男子 関西学院千里国際高等部 1年女子 佐賀県立佐賀商業高等学校 3年女子 野田学園高等学校 1年男子 〔ファシリテーター〕 佐藤 正二 〔書記〕 金子 真志</p> <p>【2班】 5名 神奈川県立磯子工業高等学校 2年男子 長野県明科高等学校 2年女子 日本大学三島高等学校 1年男子 福岡県立門司学園高等学校 2年女子 鹿児島情報高等学校 2年女子 〔ファシリテーター〕 谷山 大三郎 〔書記〕 當山 達也</p> <p>【3班】 5名 茨城県立竹園高等学校 2年女子 新潟県立長岡高等学校 1年男子 帝塚山高等学校 2年女子 高知県立佐川高等学校 1年男子 大分東明高等学校 2年女子 〔ファシリテーター〕 青木 勲 〔書記〕 本田 麻依</p>
---------	--

4. 主担当

大阪私学教育情報化研究会	司会進行
一般社団法人安心ネットづくり促進協議会	事務局、庶務 等
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動 全国連絡会	事務局、撮影、配信 等
各団体、事業者等	挨拶、講演、ファシリテーター、記録 他

以 上